

アフリカ・五感・融合

新年あけましておめでとうございます。
 いよいよ21世紀も二ヶタ台に突入。明らかに時代の大変化が感じられるようになってきた。

昨年の6月より一ヶ月、会社設立35周年の記念休暇でアフリカを旅した。人間の原点や感性、数千年、数万年単位の時代変化を素直に考えることができ、大変有意義であった。一言でアフリカの印象を表すと、「とにかく広い(世界の土地の22%、国家数の3割)」。極東を除く世界の歴史・文化・経済が生きていている」といえる。しかし今、中国人、韓国人が急速かつ圧倒的に流入し、日本や「円」の存在感が極めて小さいのと対照的である。

旅を終えた今、21世紀の100年間という単位は、やはりとんでもない時代に来たと確信した。第一には、世界の人口が文明史上初めて減少することだ。第二は、地球環境の変化が水や食料、薄っぺらな都市基盤をゆるがす事。第三は、科学技術の非連続的な進化である。とりわけ、生命科学の未来は宗教との相克を繰り返しながらも、確実に実態が先行し、上の2点と合わせてBC5世紀以来の精神革命を引き起こすのではないかと思われる。ロボットが生命科学とどのように合体するかは不明だが、意外と早い時期にイノベーションが起きるかも知れない。

石黒浩さんとの対談でもふれたが、五感というものは本来バラバラでなく、一体的に融合している事。日本人、とりわけ女性は、明治までその優れた感性を保持していたことが特筆される。最近では、カルチュラルコンピューターという分野を切り拓こうと、世界的に注目されている土佐尚子さん(京都大学)らの研究プロジェクトに期待している。中津良平氏(元ATR、現シンガポール大学)は先日京大の映像フォーラムで、プラトンの二頭の馬と御者の話を引合いに、これからは2400年を経て、「ロゴスとパストの融合」の時代に入るのではないかと、と科学者の立場から指摘されていた。

日本人の強みは先祖伝来の神と外来仏教を見事に融合し、中国や西欧の文明を不思議な仕組みで日本型へ取込む天才的な感受性と受容力にあると思う。

今、欧米型覇権主義や一神教同士の対立の中、一人勝ちのグローバル社会に進みつつあるように見えるが、実はこの100年間は国家を超えた多数多様のネットワーク型社会に移行すると見た方がよい。その時、日本人の感性や融合の能力は、大いに世界に貢献できるように思える。まず、日本人自らがその価値に気づき、失いつつある感性の回復と創造に向かって動き出すことが必要だと切に思う。皆様はどう考えられるだろうか。

本年もどうぞよろしく御指導、御鞭撻下さいますよう

お願い申し上げます。

平成二十二年 元旦

DAN計画研究所 代表取締役社長

吉野国夫